

高専通信

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY(KOSEN), TOMAKOMAI COLLEGE



オープンキャンパス

プロコン

インターンシップQ&A

クラブ活動報告

新型コロナウイルスの対策・対応について

冬季体育大会

VOL.
155

2021年3月発行

苫小牧工業高等専門学校

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443 苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係

[URL] <https://www.tomakomai-ct.ac.jp> [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

新年のご挨拶

苫小牧工業高等専門学校 小林幸徳

2021年を迎え、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症一色の一年となりました。1年前のご挨拶では、東京オリンピックや高専ブロンなど、希望に満ちた話題に触れましたが、オリンピックは一年延期となり、ブロンはオンライン大会としての開催と大きな変更を余儀なくされました。また、昨年度の卒業式を挙行できなかったことは、大変残念なことでした。今年度は、万全の感染症対策を講じた上で規模を縮小することとなったとしても、卒業式を挙行して卒業生・修了生を送り出したいと願っています。

さて、昨年4月は入学式後の4月10日から臨時休業となり、4月15日からは遠隔授業の実施となりました。本校では、3月末から遠隔授業の準備を進めていたため、極めて早い段階から特別時間割に基づき授業を実施できました。しかしながら、学生の皆さんはもちろん、教員にとっても本格的な運用は初めての経験でしたので、互いに試行錯誤するところも多々ありました。その後は、6月22日からの分散登校による実験等の集中的な実施を経て、何とか前期中に実験・実習を含むすべての科目を終了することができました。その間に実施したアンケートでは、学生の皆さんから様々な意見が寄せられましたので、遠隔授業や分散登校における課題の解決に向けて全教職員で改善に向けての取り組みを継続しました。また、7月20日からの3日間にわたって行ったweb保護者説明会では、保護者の皆様からも多くのご意見を

いただき、学校運営の見直しに反映させていただきました。



9月中旬に学生寮の複数部屋へ飛沫拡散を防止するカーテンの設置を行い、後期の授業開始時には全寮生が入寮した上で、対面授業を再開しました。その後も、全国的に新規感染者数の増大傾向は続いています。学びの継続が大事であるとの観点から、できうる限りの感染防止策を講じた上で、対面授業を基本としながら、必要に応じて遠隔配信するハイブリッド型授業に取り組んでいます。個々の学生の希望に完全に沿った授業方式ではないかもしれませんが、引き続き最善の方策を考えながら取り組んでいきます。

さて、多くの学生活動が制約されている中で、デザコンにはいくつかのチームが本校からも参加しました。デザコンもオンライン開催とはなりましたが、各チームが精力的に課題に取り組み、見事に予選を突破して、本選へ進出しました。さらには、1月末にオンライン開催される英語プレコンにも3名の学生がエントリーしています。困難な状況にも負けずに果敢に取り組み姿に大変感銘を受け、本校学生たちの前向きな活動を大いに称えたいと思います。

2021年度からは、専攻科が創造工学専攻の一専攻に改組され、創造工学科からの改組が完成することとなります。2020年度の本科卒業生は創造工学科一期生であり、今後は皆さんの活躍が期待されます。創造性に溢れる卒業生が世界へ羽ばたくことを祈念して、年初のご挨拶とさせていただきます。

男子寮新寮長 満保 陸 4年1組

この度、蒼冥寮寮長になりました。創造工学科機械系4年満保陸です。私は持ち前の明るさを武器に、コロナ禍でどんよりした寮に明かりをともしたいと思い寮長になりました。寮の行事などを全力で盛り上げ、楽しみながら全寮生が暮らしやすい寮を作りたいです。



今年度の寮生会のテーマとして「礼儀と学力の底上げ」を掲げています。礼儀として、先輩、教員への挨拶はもちろん、食堂でのマナー改善について取り組みたいです。学力面では、低学年の自習時間の見直しをはかります。ただ暮らすだけではなく、同時に社会のルールの基本を学べる場を作ればと思います。そして、寮内に目安箱を設置し多くの寮生から意見を聞き、より良い寮を作るヒントになればと思います。

もう一つ、寮務教員との連携にも力を入れたいと思います。寮での急な故障やトラブルに対して、学生だけでは判断ができないとき、即座に寮長として寮務教員と連絡を取り合い、解決に結びつけたいと思います。



コロナでなかなか思うような生活ができない中ではありますが、良い点はそのまま残し、悪い点は積極的に改善する、変化の一年にしたいです。

気候、景気ともに寒い時期ではありますが、「心を燃やして」頑張りたいと思います。1年間よろしくお願いします。

新学生会長 吉田 空 4年1組

この度、新たに学生会長を務めさせていただき創造工学科機械系4年の吉田空です。

まず初めに学生会の活動内容を紹介いたします。主に高専祭の企画、運営をはじめ

新1年生に対する対面式の開催、学生との意見交換の場として最低でも月に1度、評議会を開催することです。これらに加え、ほかの委員会の補助に回ることも多くさまざまな仕事をこなしています。その他詳しい活動内容は本校ホームページに記載されていますのでご参照ください。

前年度は、新型コロナウイルスの影響で高専祭をはじめ、多くの行事が中止になってしまい学生会としての職務をこなすことができませんでした。そのため新年度は、最新の情報がない状態での活動となり多少不安はありますが学生会メンバー、各種委員会全員で力を合わせ学生全員が楽しい高専生活を送れるよう努力してまいります。

我々の意に反して、今後も新型コロナウイルスの影響を受けてしまう可能性は十分に考えられます。そのような事態になってしまった場合は、前年度の経験を最大限活かして可能な限り活動していきます。学生の皆様には不躰なお願いをしてしまうことがあるかもしれませんがどうかご理解とご協力をお願い致します。



女子寮新寮長 古川結菜 4年2組

この度、楓和寮の寮長に就任しました創造工学科都市・環境系4年の古川結菜です。

楓和寮では、様々な出身地、年齢、好きなことなどが異なる様々な女子学生が1つの建物で生活しています。約60名での共同生活ですので、寮で取り決めているルールを守ることはもちろん、常識やモラルに基づいて生活していくことが重要になってきます。ですが、高専という特殊な環境上、15歳から20歳の人々が一緒に生活できるという事は珍しく、今後の生活でもきっと良い経験になると思います。寮生でなければ出会うことのない先輩・後輩との交流は学生生活をより良いものとし、幅広い交友関係にもつながると思います。



寮生全員の要望を取り入れた寮を作り上げるのは不可能だと思います。さらに、新型コロナウイルスで制限が多くなっている状況ですが、改善できることは改善を行いたいと思っています。寮長としてできることは沢山あるので、その責任を果たしたいと思います。



寮生の皆さんをはじめとする関わる全ての皆様、任期終了までよろしくお願ひいたします。



令和2年度 保護者懇談会の実施報告

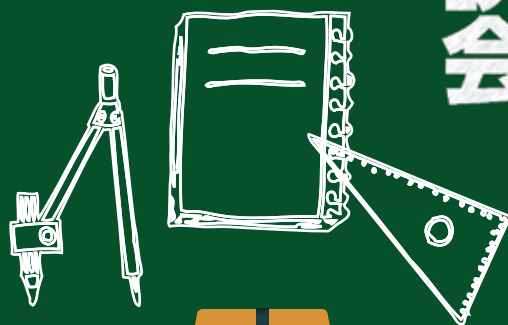
教務主事補 浅見廣樹

保護者懇談会

今年度は、コロナ禍の中で実施も危ぶまれる中ではありましたが、感染症対策を十分に施した上で、令和2年11月2日（月）に保護者懇談会を実施させていただきました。この結果として、ご多忙の中かつ非常に難しい状況下の中にも関わらず、668名（当日以外の懇談者数101名、出席率68 %）と例年と変わらない数の保護者の皆様に御来校いただきました。まずはこのことについて、この場をお借りして深く感謝申し上げます。今年度の前期期間中は、いわゆる座学科目については遠隔配信にて授業を実施させていただきました。また、後期からの通常登校再開後においても、学生には普段とは異なる環境にて学校生活を過ごしていただいております。このような状況の中において、保護者の皆様方におかれましては御息、御息女の学習状況や学校生活の状況等について、不安を感じておられたかと思います。短い時間ではありましたが、クラス担任との懇談が少しでもこのような不安の解消に繋がったのであれば幸いに存じます。

この原稿を執筆している1月現在、道内における感染状況は収束の傾向を見せておらず、今しばらくは忍耐の時が続くことが予想されます。この状況の中において本校では、希望学生への遠隔授業対応など、様々な対策や取り組みを続けております。これらの取り組みにおいては、規則整備などが追い付かず学生や保護

者の皆様にご不便やご心配をおかけしている点があるかもしれませんが、引き続きご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。また、本校ではIT・オンライン化が進む社会に対応した人材育成手法や遠隔授業の活用方法など、今後を見据えた教育改善についての検討・取り組みを始めております。この苦難の状況を転機と捉え、より質の高い教育を学生に提供できるよう教職員一同で努めてまいりますので、今後とも苫小牧高専における教育・研究、学校・寮生活等のご理解ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



共同教育を振り返って

電子・生産システム工学専攻主任 工藤彰洋

ここでは、専攻科1年生の科目である共同教育の最終発表会について報告します。この授業は、学外研修科目に含まれています。学外研修は、企業にて実働40時間以上の研修を受ける学外インターンシップと、グループワークで本校協力企業様から与えられるテーマの問題解決に取り組む共同教育から構成されています。今年はフロンティアコース5年生の科目であるビジネスIIIと同時開講し、5年生と専攻科1年生が同じ授業に取り組む試みを行ないました。

学校閉鎖後の4月21日から遠隔方式にて共同教育を開始しました。すぐにグループワークを始めたかったのですが、手順が定まらなかったため、2回目までは、学生個人による協力企業の調査と提案可能なサービスについて文書にまとめる作業を進め、その後、グループワークを開始して、各自がまとめた資料をグループとして、まとめ直すことに加え、協力企業様へ質問事項を作成する取り組みを行いました。

6月23日に中間発表を行ない、その後、専攻科では対面方式、5年のフロンティアコースでは遠隔方式と別々の方式で授業を進めました。

8月4日に大講義



室を会場にして最終成果発表会を実施しました。協力企業様へは、事前に発表会のスケジュールの周知を行ない、都合のつく方は会場へお越し頂き、それ以外の方には、遠隔会議システムを使ってゲストとしてオンラインで参加頂きました。技術的な課題としては、オンラインの参加者へ会場内の発表者や質問者の音声配信することに加え、オンラインで参加している方からの質問を会場へ配信する、音声信号の調整に苦労しました。

発表会では、苫小牧特産の豚肉の加工品についての新商品、ビーコンを利用した駐車場監視システム、ドローンを活用した家の防犯システム、VRを用いた仮想空間中における教育サービス、測量機器を用いたゲームなど、多岐にわたる分野について提案が行われました。また、発表直後の質疑応答に続き、協力企業様から講評をいただくなど、発表した学生にとっても教訓のある場になったのではないかと考えております。



最後に、協力企業として参加いただきました、タナカコンサルタント様、プレジール様、インフィニットループ様、ナラサキスタックス様、エーティック様に、心より感謝申し上げます。

令和2年度・オープンキャンパス・オンラインオープンキャンパス実施報告

教務主事補 高橋 芳太

苫小牧高専では、本校の教育活動についてご理解いただくためのイベントの一つとして、毎年、オープンキャンパスを開催しています。今年度はコロナ禍の中、新しい形でのオープンキャンパスを実施する運びとなりました。中学生と保護者に本校に來校していただいて行う形の対面でのオープンキャンパスは、8月23日（日）に実施いたしました。また、苫小牧高専のYouTubeチャンネルを開設し、オンラインオープンキャンパスとして、本校の教育活動などを紹介する各種の動画を公開いたしました。

8月23日（日）に実施した対面でのオープンキャンパスは、事前予約制、中学3年生限定で保護者の付き添いは1名までという形で実施しました。当日は天候に恵まれ、多くの中学生と保護者を含むご家族、ならびに中学校関係者の皆様にご参加いただきました。今年度の来場者数の状況ですが、中学3年生286名、保護者164名の合計450名の方にご参加いただきました。本校に関心を持ち、市内・市外から本校までお越しいただきました皆様、誠にありがとうございました。また、参加者が密になることを避けるため、午前3回、午後3回に分割し、それぞれの回で、学校概要説明、専門系模擬授業、もしくは、キャンパスツアーを実施しました。これらの学校説明や模擬授業などを通じて、本校の教育内容に対する理解を深めていただく機会を提供できたのかと思います。



今年度は、初めての試みとして、対面でのオープンキャンパスを実施した後で、苫小牧高専のYouTubeチャンネルを開設し、YouTube上でオンラインオープンキャンパスを実施しました。YouTube上で公開した動画では、8月23日（日）に実施した対面でのオープンキャンパスの様子のほか、学校概要説明、苫小牧高専紹介動画、各専門系ごとの専門系模擬授業（実験）、キャンパスツアーに関する動画を活用し、本校の教育内容や概要について知っていただく機会を提供しました。

今回のオープンキャンパスにご参加いただいた方へのアンケート結果では、「苫小牧高専を知る上で大変参考になった・参考になった」という回答が約99%となり、オープンキャンパスの目的を果たすことができたように思います。また、「現時点での、苫小牧高専の志望順位を選んでください」との質問では、70%が第一志望、28%が第二志望、2%が第三志望以下という結果となりました。すべての中学生に進学したいと考えてもらえるような魅力的な学校づくりに励みたいと思います。アンケートのコメントとして、学生・教職員の皆様の対応への好意的なご意見を数多くいただいております。皆さまのおかげで無事にオープンキャンパスを終えることができました。心より感謝申し上げます。



オープンキャンパス（8月23日実施）

アンケートでいただいたご意見の一部を紹介いたします。

- コロナで大変な中、模擬授業や学校説明会・寮の見学など開催して頂きありがとうございました。
- 高専は、充実した学校生活が過ごせそうで、専門的な実力が着くのがやはり魅力で気に入りました。
- 他の高専と何が違うのか分からないので他の高専と比較しながら教えて欲しいです。
- 寮生活が心配だったのですが、実際に見ることができてよかったです。個別の質問にも答えていただき、疑問を解決できました。
- 想像していたよりも、良い学校で設備も充実してて凄いと思いました。
- 綺麗な校舎や、わかりやすい説明や授業で、ぜひ入学したいと思いました。ありがとうございました。

Q. 進学したい理由をすべて選んでください（複数回答可）



機械系

模擬授業 CAD「ものづくり」疑似体験

コンピュータで立体的な仮想部品を作ることができるソフトウェアを用いて、「ものづくり」の疑似体験をしてもらいました。

オンラインオープンキャンパス動画より



都市・環境系

模擬授業 水理学実験

都市・環境系の3年生で学習する「水理学」の実験を体験してもらいました。

オンラインオープンキャンパス動画より

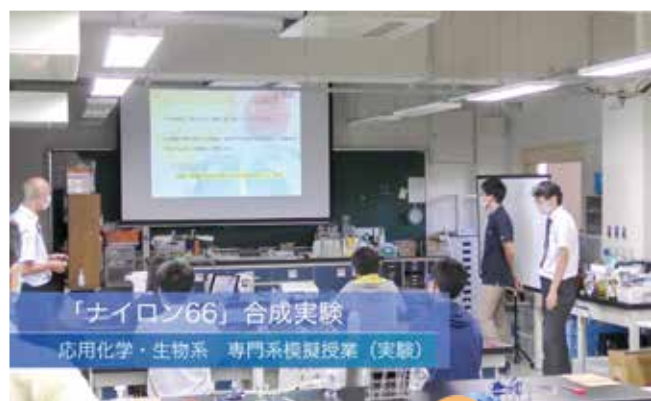


応用化学・生物系

模擬授業 ナイロン合成実験

身近な衣類やバッグの素材として利用されている「ナイロン」の合成実験を体験してもらいました。

オンラインオープンキャンパス動画より



電気電子系

模擬授業 放電プラズマ実験・リニア試乗

オーロラや雷として知られているプラズマに関する光と音の不思議実験を体験してもらいました。

オンラインオープンキャンパス動画より



情報科学・工学系

模擬授業 「マインクラフト」Python体験

パイソン (Python) と呼ばれるプログラミング言語を用い、「マインクラフト」プログラミング体験をしてもらいました。

オンラインオープンキャンパス動画より



学校概要説明会

密を避けるため、広い間隔を確保した上で、学校概要説明会を実施しました。

オンラインオープンキャンパス動画より



① 有限会社ベスト青梅
東京都青梅市

② 8月17日(月)～8月27日(木)/9日間

③ 実際の工場内での、機械操作による生産体験を行うことができるため。機械加工をより良くする、治具を自ら設計し製作することができるため。

④ コロナ禍での、二週間という長期滞在ということが一番の不安要素だった。また、社員寮(アパート)での一人暮らしという点も不安が大きかった。

⑤ ボール盤、旋盤、プレス加工機などを操作しての様々な部品の量産体験、治具の設計と製作を行いました。

⑥ 量産体験において、実習では触れたことのない機械にも触れることができ、いくつもの部品を製作できた事です。また、そうして製作した部品が実際に注文をした業者に届き、商品の一部として世の中に出ていくことはとても達成感がありました。

⑦ インターン先に筆箱を忘れ、初日のオリエンテーションに何も持たず臨んでしまったことです。その日の帰りに買いに行きました。

⑧ 社員寮に住んでいる、年の近い社員さんといろいろなお話ができたのがとても楽しかったです。食事や買い物などにも連れて行っていただき、とても思い出に残っています。

⑨ 実際に工場に行って機械に触れて部品を製作する、という現場の空気というものをしっかりと感じ取ることができました。自身のこれからのキャリア設計にとっても良い影響を与えることができました。

⑩ 自分の気になっている会社がなくても、似た業種や業務内容の会社を見つけたらぜひとも行って欲しいと思います。調べるだけではわからない現場の生の雰囲気というものを感じるの、後々のキャリア設計に多大な影響を与えてくれると思います。緊張すると思いますが頑張ってください。



4年1組

小野静也



インターンシップ Q&A

① インターンシップ先の社名と所在地を教えてください。

② インターンシップの日数と期間は?

③ その受け入れ先を選んだ理由は?

④ 行く前に不安だったことは?

⑤ 受け入れ先でどんな仕事を体験しましたか?

⑥ 振り返って特に印象に残っていることは?

⑦ 今だから言える失敗談は?

⑧ 楽しかったことは?

⑨ インターンシップで得たものは?

⑩ 後輩へのアドバイスは?

① サントリーホールディングス株式会社
web開催

② 8月20日(木)～8月22日(土)
8月24日(月)～8月26日(水)/6日間

③ 沢山の人の笑顔にすることができるビールの製造に携わりたと思いました。また、サントリーの企業理念である「やってみなはれ」の精神に感銘を受け、失敗を恐れず常に新しいものを創造する理念に共感を持ったため。

④ Web開催に不安はありましたが、実際は予想以上に充実しており、企業情報や現場の情報、仕事内容などを聞けることができました。また、全国高専の参加学生と一つの課題に取組むグループワークではリモートの便利さを実感できました。

⑤ Webでは仕事の体験はできませんでしたが、効率良く6工場も見学できました。高専卒業生や工場長から現場のお話だけでなく、就職活動などを伺い、参考になりました。

⑥ ビールを作る際にも高専での学生実験の内容が応用されていたことに、驚きました。また、マンツーマンで新入社員に教育担当が付き、業務や日常生活に対しても指導・育成していることに好感を持ちました。

⑦ インターンシップ初日は緊張の連続で、ずっと背筋を張って姿勢を崩さずパソコンの画面を見ていました。休憩時間に背中を撃ってしまい、グループワークが一緒の高専の人に爆笑されました。

⑧ 自分が入社出来た際に、希望している工場に本校卒業生(寮でも大変お世話になった先輩)が居ました。久しぶりにその先輩とお話が出来たことが楽しかったです。また、グループワークで一緒に取り組んだ他高専の学生と知り合いになれたことも良い点でした。

⑨ 参加前は漠然とビール製造の仕事に就きたいと思っていたものが、参加後にその詳細が具体的に became することです。自分がやりたい仕事は何なのか、何のために働くのかなど、就職に対して具体的なイメージを持つことができるようになりました。

⑩ インターンシップに参加すれば就職に対する意識付けができると思います。自分が将来どんな仕事に就きたいのか、どんな企業があるかなど、就職活動に向けた契機付けができ、早い段階から備えて考えることが出来ると思います。また、普段接することが少ない社会人や他高専の学生との交流を通じて、自分の視野や考え方を広げることが出来る良い機会となります。高専卒業後に就職を希望している学生はもちろん、進学希望学生もインターンシップの参加は絶対損が無いので、是非インターンシップに参加してみてください!



4年3組

佐藤千真

① ドービー建設工業株式会社
北海道函館市

② 8月26日(水)～9月2日(水)/6日間

③ コンサルタントよりも現場で働いてみたいと思ったので名前を聞いたことのあるこちらを選びました。また他の企業は本社や支社の住所のみの記載が多い中、現場の住所を記載していたのも決め手になりました。

④ 企業の方としっかりコミュニケーションが取れるか、現場で何か迷惑をかけてしまわないか、知識が足りずに意味のないものになってしまうのかなどの不安がありました。

⑤ 二箇所の建設中の橋梁見学、グラウトデータの打ち込み、整理。具体的な仕事の体験というよりも現場の雰囲気を体験する感じでした。

⑥ 期間中の半分以上は橋の上で自由に回れる時間で楽しかったのですが、中でも箱桁の内部に入って他高専や大学のインターンシップ生と写真を撮ったりおしゃべりをしたのが記憶に残っています。箱桁の内部は建設中にしか入れない場所なので雨が降ったり日差しが強いとすぐに入ってお話していました。

⑦ 気さくな方が多く喋り方も親戚のおじさんに似ていたため一度だけ敬語が抜けてしまったこと。気にしなくていいよと言ってくれましたがその後ずっと意識して話していました。

⑧ 社員の方に七飯町の道の駅に連れて行ってもらったり、函館牛乳のソフトクリームを食べさせてもらったこと。苫小牧高専のOBの方達だけでご飯を食べに行ったのも意外な話を聞けて楽しかったです。

⑨ 話を聞くだけではイメージでしかなかった現場の雰囲気を知ることができました。始業前のラジオ体操や各作業ごとの危険予知活動など実習とは違う緊張感があり、現場では至る所に危険が潜んでいるのだと実感しました。また測量学や設計製図、構造力学などの授業を社会に出てからどのように活用するのかを理解できたため授業への取り組み方を改めようと思いました。

⑩ 就職希望の人も進学希望の人も時間があるなら行くことをお勧めします。具体的にやりたい職種が決まっていなくてもブラックボード掲示される求人を見れば気になる企業が見つかりますし、実際に働いているところを見ることで自分の将来をイメージしやすくなると思います。交通費などは企業が出してくれるところが多いので遠い場所でも気にせず参加するといとおもいます。



4年2組

板谷乃亜

① 北海道警察情報通信部

北海道札幌市中央区北2条西7丁目

② 8月24日(月)~8月28日(金)/5日間

③ 情報技術を用いる業務があるので興味があったから。インターンシップを通して働くとはどのようなことかを知り、今後の就職活動における自分の特徴や強みを見出し就職活動に生かしたいから。

④ 警察組織なので内部の事がよくわからず自分の持っている技術でカリキュラムをこなすことに不安を感じました。周りの人とは初対面なので意思疎通を図って共同作業をこなすことに不安を感じました。

⑤ LANケーブル、ICTケーブルの作成などの保守実技、初動活動で使用される実機操作、情報解析業務の体験、工事価格の算出。

⑥ 施設の見学において屋上に上って札幌市を見渡すことが出来たこと。応急通信対策車と非常電源車の見学を行ったこと。若手職員との懇談で警察学校での生活などの話を聞いたこと。普段作ることのないLANケーブルの作成をしたこと。

⑦ 情報技術解析課の体験においてログの時間を解析する際に使用したソフトで小数の扱い方が分からずエラーが出力されている状態で作業を完了してしまったこと。データの復元の際にフォルダではなくファイルを選択したこと。

⑧ 情報解析の業務においてログの解析やデータの復元をすることができたこと。職員との懇談において業務に関係のない雑談をできたこと。

⑨ グループワークにおけるコミュニケーションの大切さを知ることが出来た。就職活動について意識することができ、働くことの大変さを知ることが出来た。知らなかった警察組織の詳しいことを知ることが出来た。

⑩ 北海道警察情報通信部のインターンシップは各課の基本的な説明や業務を行うので情報の知識や技術がなくても十分に業務を行う事ができると思います。また職員との懇談もあり今までの体験で分からないことや気になったことを気軽に質問できます。貰える資料が豊富で募集要項などの就職に関する話も詳しく行ってくれるので警察情報通信部などの国家公務員を希望する人は役に立つと思います。



4年5組

小野礼夢

① 株式会社タマディック

愛知県名古屋市

② 8月24日(月)~8月28日(金)/5日間

③ 自分はロボットに興味があり、それに関わる設計開発に携わる現場を見てみたいと思ったからです。

④ 受け入れ先の企業の方に、悪い印象を与えるような行動をとってしまわないか心配でした。また他の学校の学生に比べて、知識に不足がないかが心配でした。

⑤ ロボットアームを動かす課題を与えられ、設計開発の仕事を疑似体験しました。具体的には回路製作や、プログラミングなどを行いました。

⑥ 「企業では作ったものをこれから使う人がいる、だから常に100点でなければいけない」というお話をされたときです。学校生活では、使う人を意識することがないので新鮮でした。

⑦ 最初はかなり緊張していたので、自己紹介がまとまらず、意味不明なことを言ってしまいました。自己紹介と質問くらいはまとめておくといと思います。

⑧ ロボットアームが完成し動いたときです。特に電源回路は部品の選定からシミュレーション、はんだ付けまで行っただけで、正常に動作したときは嬉しかったです。

⑨ 今まで企業に就職するというのを漠然と捉えていましたが、実感を持つことが出来るようになりました。実際に現地に赴くことで、社員の方々と直接話し、会社の雰囲気を知れたことはインターンシップだからこそ得られたものだと思います。

⑩ 誰しも「知らないから怖い」というものがあると思います。自分はまさにそれでしたが、実際に体験してみると温かく迎えていただき、ここでは説明できないほどたくさんの事を得ることができました。興味があれば迷わず応募すると思います。このご時世、難しいかもしれませんが現地開催のインターンシップがおすすめです。



4年4組

秋田直哉



① 第一工業製薬滋賀工場

滋賀県東近江市

② 8月24日(月)~8月28日(金)/5日間

③ 化学品メーカーから電気、機械系への募集だったため、業務内容に興味があったからです。また今まで触れてきたことのない分野だったので、興味があったということもあります。

④ 自分の専門分野外のインターンを経験するため、基礎知識として必要なことがぬけているのではないかと不安でした。

⑤ 界面活性剤の生成の見学や点検作業など、工場内での業務体験というよりは、企業の紹介や、製造物についての基礎知識などの座学が多かったです。

⑥ 3日目の歓迎会で聞いた工場長や各室長のお話が印象に残っています。皆さんが高専OBだったので、共感できるお話しが多かったことと、今までのキャリアなどについての興味深い話が多かったです。

⑦ 歓迎会がとても楽しくて、ついしゃべり過ぎてしまったことです。

⑧ 品質管理での業務内容を体験したことです。ガスクロマトグラフィや比重検査など、普段機械系ではあまり体験することのない内容だったため、とても新鮮でした。

⑨ インターン先が化学系の工場ということで、普段自分たちが触れることが少ない分野について知識を得ることができました。また、このような工場勤務で機械系出身の自分が求められているスキルについて勉強できたことが良かったです。

⑩ 普段の学校では教わらないことが多く学べるため、積極的に参加するべきだと思います。高専という狭い世界から出て、外の人と交流するいい機会もあるので、進路が明確に決まっても参加することを重ねてお勧めします。



電子・生産システム工学専攻 1年
藤田 亘



① JFEシビル株式会社福山事業所鉄鋼土建事業部

広島県福山市

② 8月31日(月)~9月4日(金)/5日間

③ 研究で「鉄」に関わることになり鉄の奥深さに興味を惹かれ、加えて事前調査で競合他社に比べ製鋼の技術が秀でていると感じ、国内トップクラスの企業の技術・事業内容を体験したいと思ったためです。

④ やはり勉強・調査不足の点です。一学生と社会人の間では埋めきれない知識量・経験値の差があると思うので、胸を借りる思いで学ぶことに集中しました。

⑤ 主な仕事は、製鉄所内の鉄鋼土建事業部が担当する工事の見学、測量業務、縦断面図横断面図の作成でした。

⑥ 図面作成に付随して実務的な計画を経験できたことです。難易度は高かったですが、「内容が妥当であれば使用される」と伺っていた為良い緊張感の中取り組むことができました。

⑦ 作業着の中に着ていたシャツの丈が長く、作業着からはみ出ていると指摘頂いたことです。そのときは正直やってしまった…と頭が真っ白になりました。

⑧ 同じ期間の研修生と仲良くなれたことです。限られた時間の中ででしたが、インターンのこと、他愛もないことを話したりして充実した時間だったと思います。

⑨ 「安全はすべてに優先する」・「コミュニケーション能力が欠かせない」・「実務的な視点で事象に取り組む姿勢の持ち方」の三点です。

⑩ インターンシップ期間を活かすも活かさないもあなた次第です。良い経験“だった”と受け身になるのではなく、能動的な言動や一生懸命取り組むことで良い経験が“できた”と思えるでしょう。そのためにもコミュニケーション能力は必要になります。あつという間の高専生活を充実したものにできるよう楽しんでください。



環境システム工学専攻 1年
中川拓己

本校における新型コロナウイルスの対策・対応について

副校長（総務主事） 古崎 毅

本校では感染拡大防止の措置を取って4月7日に入学式を、8日にWeb配信形式で始業式を、9日から対面授業を開始しました。しかしながら、緊急事態宣言発令に伴う北海道の集中対策期間設定に対応して、4月10日～14日を臨時休業とし、15日から遠隔授業を開始しました。また、玄関や講義室へのアルコール消毒液の設置、講義時における常時換気とソーシャルディスタンスの確保、鵬翔会館の食堂のテーブルへの仕切り板の設置、学生寮の個室化・食堂テーブルへの仕切り板設置・浴室利用者の人数制限等の対策を取って、6月22日～8月7日の間分散登校を実施しました。その間、学生及び保護者の皆様のご理解とご協力で深く感謝申し上げます。

一方、北海道地区高専体育大会、高専祭、工場見学旅行、総合研修旅行等、多くの学校行事を中止せざるを得ませんでした。また、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、前期に予定していた全ての国際交流事業（海外派遣及びインターンシップ受入等）を中止や延期せざるを得ませんでした。2021年の春季休業時に幾つかの事業を実施できないかを検討しましたが、感染収束の兆しが見えない事

もあり、今年度の事業は全て中止としました。これらを楽しみにしていた多くの学生に対し深くお詫び致します。

新しい生活様式と後期からの対面授業再開を踏まえ、9月末までに男子学生寮のベッド沿いに飛沫飛散防止カーテンを設置する等、更なる感染拡大防止体制を整えました。また、冬季間に入り、熱交換型換気装置による換気に加え、常に窓を開けての換気から45分毎に窓を開けての換気を行っております。さらに、廊下や階段の数カ所の窓を少し開けて校内の空気の流れを確保しております。対面授業を原則としておりますが、通学時の列車やバスでの密に危惧を抱く学生や基礎疾患を抱える学生等については遠隔授業での対応も併用しております。

上述のように本校では可能な限り感染防止対策を講じてはおりますが、油断することなく学生・教職員に対して感染防止対策を呼びかけて参ります。皆様におかれましては、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



本校における遠隔授業の対応について

副校長（教務主事） 村本 充

本校では、始業式と初日の授業を実施したものの札幌圏での急激な感染者増加を受けて臨時休業としました。その後、全学的な遠隔授業をすぐに開始しました。コロナ禍前からキャンパスWi-Fiを整備してMicrosoft365やBlackboardの利用を促進し、また、今年度の入学生からノートPCの購入を推奨する等、ICT活用教育に力を入れてきたことから、学生・教職員双方に遠隔授業に対応できるスキルが身についていたことが功を奏したと考えています。とはいえ、遠隔授業の実施については、学生および保護者のご理解とご協力なくしては実現できなかったことから、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、遠隔授業に至る経緯についてご説明いたします。本校では、昨年3月末までに遠隔授業を正規授業として認める決定を行い、全教員を対象とした遠隔授業講習会の開催、全学生に対するネット環境に関するアンケートの実施など、遠隔授業に備えた準備を着々と進めておりました。一方、リモートワークの急速な普及によってモバイルルーターのレンタルが困難となる等、想定外のことも多くあり苦慮しました。他の教育機関に先行する形で、実施方法やルールを独自に策定してスタートした本校の遠隔授業ですが、国立情報学研究所のシンポジウム、文部科学省の事例紹介、日本経済新聞等に取り上げられ、全国の大学や高専の手本にもなりました。

前期の途中からは、実験実習科目を対面で実施するために分

散登校を実施しました。本校には通学生の通学圏が広いことや寮生数が多い特徴があり、週の数日を登校日とする方式が困難なため、およそ2週間連続して登校する方式としました。登校日は連続する実験に戸惑った学生も多かったかもしれません。

学生寮の簡易個室化を含むでき得る限りの感染症対策を夏季休業期間中に講じたことから、後期は原則として対面授業を実施しています。また、対面授業の遠隔配信を併用して学習機会の確保に努めています。

コロナ禍によって私たちの生活には多くの変化がもたらされましたが、教育についても例外ではありません。今後も様々な変化が続くと考えたほうがよいでしょう。変化をチャンスと捉え、ともに成長していきましょう！



本校における新型コロナウイルスの対策・対応について

副校長（学生主事） 中島広基

令和2年度の学生活動についてご報告いたします。ご承知のとおり新型コロナウイルスに掻き乱された1年でした。学生会活動では、学生総会が開催できず評議会として代替審議、高専祭についても開催準備ができなことから中止。課外活動に至っては高体連各種大会の中止に加え、全国高専体育大会の中止、これに伴う地区大会の中止など、学生にとってはまさに受難の年となってしまいました。せめてもの救いは、延期としていた春季体育大会を冬季体育大会と併せ2日間日程に変更し希望者に限っての参加とすることで開催を可能にできたことです。体育委員会や学生会など、多くの学生の感染予防の工夫があつての開催であり、携わった全ての学生に敬意を表します。予想以上に厳しい状況の中、本校学生たちは、各々が様々な行動の中で協力をしてくれました。それを支えて頂いた保護者を含めたご家族や関係各位のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

一方、学校生活の急激な変化に伴い、個々の学生にかかるストレスは大きなものがあり、複数回にわたるアンケートや担任教員・学生相談室を中心とした面談など、学生の心のケアにも対応していただきました。刻々と変化を余儀なくされる遠隔授業や課題作成の準備、学生への相談対応、各種就学支援などに、全ての教職員が奔走した1年でもありました。学生主事としてこの場を借り、本校教職員に対しても感謝の気持ちをお伝えいたします。

新型コロナウイルス対応はまだまだ終息することではなく、今後も危機管理が続いていくと予想されます。本校においても、組織や個人がいくら予防措置をしても、関係者から感染者が出ることは有り得ることで。そうなった時こそ、誹謗中傷をし合うのではなく学生教職員が力を合わせ個人やご家族を守ってあげられる。そんな学校であることを心より願っております。

学生寮の対応について

副校長（寮務主事） 山際明利

日頃は寮生指導に御理解御協力を賜りまことにありがとうございます。

本来なら同年代の仲間が寄り集まって過ごす楽しい寮生活になるはずが、人間の密集を利用して感染を拡げる新興感染症のパンデミックという事態に際し、寮生の生活も大きな制約を受けることとなりました。寮を担当する立場として非常に残念に思っております。

令和元年度末から令和2年度初めにかけて、寮内での感染防止のため男子寮食堂、女子寮多目的ホールの食卓上に仕切りを設ける、着席人数を制限する、学寮の日課を一部変更して夜の門限、点呼時刻を前倒しにし、朝夜の点呼時には体温の報告も実施する、また女子寮については全居室を個室運用する、といった対策を講じてきました。開寮後まもなく全国緊急事態宣言発出、そして北海道での感染症陽性者急増によってすぐに臨時休校、閉寮となり、保護者、御家庭にもいろいろ御厄介をおかけしたことを申しわけなく思います。

前期は、高専機構からの「開寮するなら個室化で」という指導に基づき、授業の遠隔配信と、学年別の分散登校、分散入寮とで乗り切りました。この時点では新型コロナウイルスの性質について、まだ分からないことが多く、寮の対応も、後から考えれば不必要に労力をかけた面があるかのように思われます。とはいえ340名余の寮

生の健康を守ることを第一に考えた結果として、無駄な努力は無かったとも考えております。

夏季休業中、男子寮の二人部屋に間仕切りの飛沫防止

用カーテンを設置し、また憩室を居室に転用するなどの工夫によって男子寮の三人部屋を解消しつつ、寮生現員全員を入寮させる目処が立ち、後期からは全寮生の在寮を前提とする、通常の授業日程を進めております。この間、全国に先駆けて北海道で感染の増加があり、苫小牧市内でも複数のクラスターが発生しました。いつ、だれでも罹患し得るこの病気が、とりあえず現時点まで学生寮に持ち込まれないでいるのは、幸運であると同時に、寮生諸君がよく感染症対策を実行してくれた賜物であると感じております。

今後とも制約の多い生活は続きますが、努力と幸運とによって、寮生全員が健康であることを心から念願致します。



専攻科における新型コロナウイルスの対策・対応について

副校長（研究主事・専攻科長） 二橋創平

専攻科は、本科を卒業後にさらに2年間学ぶコースです。専攻科を卒業すると大学卒業と同じ「学士」の学位が授与されます。卒業後は、就職する者と各大学の大学院に進学する者がおります。専攻科の学生は2学年合わせても40名程度しかおらず、さらに成人した学生で構成されているので、新型コロナウイルスへの対応は比較的スムーズに行うことができました。授業に関しては、前期は本科と同様に遠隔授業が中心となってしまいました。専攻科の場合は、授業・実験も大事なのですが、「特別研究」（いわゆる卒業研究）の実施が極めて重要になり、その比重もかなり大きくなります。専攻科には本科と同様に様々な分野の研究を行っている学生がおります。分野によってはパソコンを用いた数値的な解析が中心で、遠隔であってもある程度研究を継続可能な学生も居るのですが、どうしても研究室に出てきて実験を行わなければならない分野の学生も多数居ります。後期は、本科において北海道内の感染状況を鑑みて、11月下旬より対面授業を基本としながらも教室の授業を配信する遠隔授業の実施を開始しておりますが、専攻科においては対面授業を継続して行っております。こ

れは、上記のような本科とは異なる事情によりです。

専攻科の1年生は、夏季休業期間中に企業等でのインターンシップが必修となっております。本年度は学生を派遣できない事態も想定して、学内での代替のプログラムを検討し、さらにオンラインでのインターンシッププログラムへの参加も認めて臨みました。お陰様で、道内企業に4名、道外企業に4名、オンラインプログラムに7名の、全員の学生をインターンシップに参加させることができました。他の道内高専専攻科も同様にインターンシップは必修となっているのですが、冬季休業期間や来春への延期を行っており、全員の参加は出来ておりません。

今年度は、想定していなかった新型コロナウイルスの感染拡大により、学校教育がままならない事態になってしまいました。学生や保護者の皆様には、ご迷惑とご不便をおかけしておりますこと、お詫び申し上げます。学生の学ぶ場を確保することを最優先として、教職員一丸となって努めているところです。保護者の皆様におかれましては、どうかご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

当初は苫小牧市民会館の大ホール、小ホール、会議室等を全て借り切って行う予定でした。会場の電気工事やネットワーク工事など具体案を検討していた頃、国内における新型コロナウイルスの感染者が急増し始めました。オンサイトでの大会実施の準備は一度中断し、中止の可能性を含めて関係者と何度も協議をし、最終的には規模を縮小してオンラインで実施することで決定しました。例年の大会では課題部門、自由部門、競技部門の3部門で構成されているプロコンですが、競技部門が中止となり、予選通過チーム数も課題部門と自由部門で各10チーム、合計20チームと例年の半数になりました。

オンライン開催は31年間のプロコンの歴史の中でも初の試みで、昨年までのやり方がほとんど活かせず、全てゼロからの検討となりました。プレゼンテーションとデモンストレーションは参加チームから事前に提出された動画を当日配信し、審査委員との質疑応答はWeb会議システムを使用することになりました。例年協賛して頂いているヤフー(株)さんの協力によりYouTubeLiveを使ってリアルタイムでネット配信を行いました。予想外のトラブルが何度も起きて何かと反省点の多い大会でしたが、予選の応募総

数は課題部門で46チーム、自由部門で39チームとなり、例年とほぼ同程度の参加チーム数であったことから歴史ある大会を継承する役目は何とか果たせたと思います。

苫小牧市内の小中学生や保護者の方々にこの一大イベントを間近で見いただき、ロボコンとは一味違った高専の魅力を知ってもらう絶好の機会でしたが、それが叶わずとても残念です。来年度は秋田高専が主管校として開催されますが、通常の開催が出来ることを心より願っております。



大会ポスター

第31回全国高等専門学校プログラミングコンテストを終えて

情報科学・工学系 教授 三上 剛

今年の第31回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(プロコン)は、苫小牧高専が主管校となり10月10日(土)、11日(日)の2日間開催されました。高専プロコンは例年1,500人前後が参加する一大イベントです。大会の主管校を担当するのは、北海道内の高専では3校目、全国高専では28校目です。



プレゼンテーションの配信画面



デモンストレーションの配信画面



質疑応答の様子

《本選結果》

- *課題部門最優秀賞：東京高専
- *課題部門優秀賞：広島商船高専
- *課題部門特別賞：弓削商船高専、一関高専、鳥羽商船高専
- *自由部門最優秀賞：東京高専
- *自由部門優秀賞：香川高専(高松キャンパス)
- *自由部門特別賞：石川高専、津山高専、熊本高専(熊本キャンパス)



中講義室に設置した配信スタジオ

都市・環境系の松尾研究室では、構造工学、水産土木に関する研究を行っています。

構造の分野では、橋梁を振動させて、振動データを測定する橋梁振動実験を主に行っています。我が国のインフラ構造物の多くは高度成長期時代に急速に整備されたものが多く、2029年には全国約72万橋のうち約52%の橋梁が建設後50年を経過することとなります。そのため、橋梁は5年に1回、目視点検により健全性の評価が行われていますが、目視では判断できない部分もあります。そこで、橋梁に加速度センサを設置し、その橋梁の振動データから損傷や劣化を推測する方法がありますが、個々の橋梁条件や気温変化により振動特性が異なるため、損傷が発生する前から振動特性を調べておく必要があります。本研究室では、苫小牧市内のいくつかの橋梁で定期的に振動実験を行い、橋梁条件や季節変化における振動特性を調べています。

次に、水産土木とは水産業に必要な漁場、漁港施設などを整備する土木分野です。これまで、マツカワカレイの活輸送、苫小牧漁港区の屋根付き岸壁を例とした施設整備の効果などを検討し、現在は北海道水産品の輸出拡大に向けての調査研究を行っています。

また、夏には製鉄所、秋には港湾工事の現場見学を行っています。見学は研究室の学生以外でも参加できますので、興味のある方は是非いらしてください。



橋梁振動実験の様子

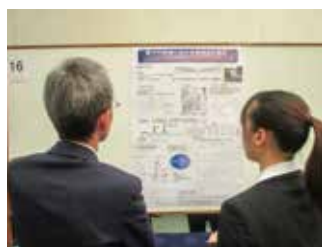


港湾現場見学（ケーソン設置）



高専協力会だより

苫小牧高専協力会の活動について



1 専攻科研究・研究シーズ発表会の開催

苫小牧高専地域連携シンポジウム2019

日時：2019年12月4日（水）

場所：グランドホテルニュー王子3階「グランドホール」

・オープニングセレモニーに関する講演

テーマ：『エネルギーのその先へ。お客様へ新しい暮らしと体験を。』

講師：北海道ガス(株) エネルギーサービス事業本部

スマートエネルギー推進室課長 稲垣利陽 様

テーマ：『オープンイノベーション促進に向けた取組について』

講師：北海道経済産業局 産業技術課

産学官連携推進係長 山本英明 様

・専攻科研究発表

発表者：専攻科1年生26名、ポスターセッション形式

・交流会

2 定期総会の開催

日時：2019年6月25日（火）

場所：グランドホテルニュー王子3階「グランドホール」

・記念講演

1) テーマ：「北海道胆振東部地震の現場から」



講師：(株)タナカコンサルタント 代表取締役社長 田中雄太 様

2) テーマ：「苫小牧地域の河川と水災害の特徴」

講師：苫小牧高専 創造工学科 都市・環境系教授 八田茂実 様

・懇親会

3 第8回会員企業合同研究会の開催

第8回苫小牧工業高等専門学校協力会 会員企業合同研究会

日時：2019年12月13日（金）13：40～16：30

場所：苫小牧工業高等専門学校 第一体育館

出展企業：80社

内容：20分ごとに6回の個別研究会

4 学校・学生との交流・共同事業

・2019年度専攻科1学年授業科目「共同教育」

・苫小牧高専「創造工学Ⅰ・Ⅲ」における座談会「ジョブトーク」

・2019年度「共同教育プロジェクト成果発表会」の共催

5 関連事業への協力

・苫小牧高専主催「科学のとびら-苫小牧高専実験教室-」への後援

・苫小牧高専サテライト「C-base」との連携・協力

・モンゴル高専生インターンシップ並びに就職への協力

・苫小牧高専地域共同研究センター研究助成審査委員会への参画

・(一社)日本機械学会北海道支部 支部後援会・研究発表会への後援

・HOKKAIDO女子中高生「Rikoのきりさぽ」プロジェクトへの協力

・苫小牧高専2019年度公開講座への後援

6 道内4高専卒業者向け「I・Uターンマッチングシステム」への参画

7 各種助成・図書寄贈

・地域共同研究センターへの研究費助成

・学術情報センターへの図書寄贈

・全国高等専門学校ロボットコンテスト2019北海道地区大会への助成

・専攻科1学年授業科目「共同教育」への助成

クラブ活動報告

サイエンス部

籍する高専では珍しい部活です。

サイエンス部の主な活動は2つあります。まず1つ目は、高文連理科学研究発表大会で発表するための実験や研究です。複数のテーマについて、数名ごとのグループに分かれて自分たちの興味のある分野の研究を行い、その成果を毎年全道大会で発表しています。今年度はオンライン開催となりましたが、奨励賞を受賞することができました。この他にも簡単な実験テーマで新入生との交流を深める1年生研究会なども行っています。

サイエンス部の部員はおよそ60人で、男子も女子も同じくらい在

2つ目の活動は、科学の楽しさを一般市民に伝える活動です。近くのコミュニティセンターでは、月に1~2回、主に小学生を対象にサイエンス教室を開催しています。特に、砂の圧力でガラスに彫刻するサンドブラストや液体窒素を使用し

た手作りアイスなどが人気です。また、国立日高青少年自然の家主催の宿泊型サイエンスフェスティバルは毎年数百人の子どもたちが参加する大きなイベントで、釧路高専の科学ボランティア部や日高高校の生徒と協力して、初日はわくわくどきどきのサイエンスショーを披露し、翌日は約20テーマの体験ブースを運営します。イベント開始前には釧路高専の部員とバスケやバレーで親睦を深めています。この他にも、科学の祭典やトヨタ自動車北海道主催のものづくり教室などで、子どもたちがより科学を身近に感じ、楽しんでもらえるような活動をしています。今年はコロナ禍の影響でサイエンス教室がほとんど中止になってしまいましたが、来年は再開できると嬉しいです。



4年2組 倉重日向



フットサル部

等で目にしたことがあるかもしれません。約15年前までは、冬季に屋外でサッカーができないため、体育館でのフットサルをサッカーの代替としているチームがほとんどでしたが、現在は地域でも年間を通じたフットサルリーグが開催・運営され、フットサルを専門競技とする選手やチームも増加しています。

苦小牧高専では10年以上前にフットサル部の創設が認められました。これは、サッカーとフットサルが異なる競技として認められた経緯でもあり、当時の高校や大学では見受けられないケースでした。フットサル部では、全道から全国につながる大会である「全日本フットサル選手権大会（社会人の大会）」、「全日本U-18フットサル選手権大会（高校生の大会）」の苦小牧地区予選を中心に出場しています。どちらの大会も準優勝と3位を獲得したことは何度ありますが、残念ながら優勝（全道大会出場）だけは辿り着けていません。また、大会出場にはサッカー部との兼務を条件としてい

部でのトレーニングにより技術・体力・精神・戦術理解を成長させ、フットサルの技術向上につなげています。ただし、大会には出場せず、フットサル競技を通じた体力づくりや仲間づくりを目的とする所属も認めています。

今シーズンは新型コロナウイルス感染拡大に伴い全ての公式戦が中止となったため、フットサル特有のルールを最後に紹介させていただきます。

- 試合時間：20分ハーフの計40分
- 競技者：1チーム5人（交代9人）、自由に交代が可能
- ピッチサイズ：20m×40m（サッカーは68m×105m）
- ゴールサイズ：2m×3m（サッカーは2.44m×7.32m）
- ボール：4号球でローバウンド（サッカーは5号球）
- ポジション（カッコはサッカーの場合のポジション）：ゴレイロ（ゴールキーパー）、フィクソ（ディフェンダー）、アラ（ミッドフィルダー）、ビヴォ（フォワード）
- 4秒ルール：試合をスピーディーに運ぶため、次のプレーでは4秒のカウントを取ります。①キックイン、②コーナーキック、③フリーキック、④ゴールクリアランス、⑤ゴレイロが自陣でボールを保持
- 5ファウル：チームとして6つめのファウル以降、10mマークから直接フリーキックが与えられる

※公益財団法人日本サッカー協会リーフレット「フットサルのルールを知ろう」より抜粋



フットサル部顧問 大橋智志

ます。フットサル競技は攻守の切り替えが激しいことと、秋から冬の期間に大会が集中しているため、春から夏の期間はサッカー



剣道部

剣道部は、部員男子13名、週5日の練習を行っています。練習内容は、月・金曜日はランニングまたは筋トレ、火～木曜日は武道場で稽古をしています。稽古は1～2時間と短く濃い内容で集中的に行っています。また、ランニングと筋トレにより強じんな肉体を手に入れることができます。

剣道部には良いところがたくさんあります。まず、学年を越えて仲が良いという点です。稽古中は声を掛け合い、「お互いで高め合おう」という雰囲気を取り組んでいます。練習以外でも、先輩が後輩に勉強方法の指導なども行っています。系選択のアドバイスや



進路についての相談もできるのでとても居心地の良い空間ができています。寮生は特に一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったり、部屋に集まって映画鑑賞をしたりと、仲間との絆を深めることができます。

剣道部は仲が良いだけではなく、実際に強いです。剣道歴が10年以上の人がほとんどで、名門道場出身の選手も何人もいます。今年は主力選手が1～3年生のルーキーチームだったため、若々しく活発な剣道が私たちの強みでした。

今、私たちは来年度に向けて日々練習に取り組んでいます。来年度は高体連、新人戦、高専大会で優勝してみせます。

剣道に興味がある人、実は昔剣道していたって人、ぜひ剣道部に入ってみてください！絶対に楽しい高専生活を送ることができます！

これからも剣道部への応援よろしくお願いします。

3年1組
長谷川 修斗



書道部

書道部は、令和3年度で設立9年目を迎えます。今年度は昨今の情勢により、部活動は10月からのスタートとなりましたが、新入部員として1年生4名、2年生1名を迎え、より一層活気溢れる部となりました。

書道部の主な活動内容は、書道パフォーマンスを行うことです。最高のパフォーマンスを披露できるよう、普段の部活では、臨書や様々な書を表現する創作活動を各自行っています。

これまでに出演させていただいた主なイベントは、毎春行われるイオン苫小牧でのGWイベント、苫小牧アルテンにて行われたリレー・フォー・ライフというチャリティーイベント、同じく苫小牧市内にて行われる紙フェスティバルや市民文化祭などがあります。また、本校行事の1つである高専祭にて、作品の展示や書道パフォーマンスを披露しています。

その中でも特に紙フェスティバルは、開催時期が夏休みの真っただ中という事もあり、寮生部員は宿宿をしながら、部員全員で一丸となって毎日パフォーマンスの練習に励んでいたため、思い入れの強いイベントとなっていました。令和元年に行われた大会当日は、午前と午後の2回にわたって約

30分ずつ音楽に合わせて書道パフォーマンスを披露しました。大勢の観客が見守る中、文字、色、レイアウト、道具、曲目などを自分たちで考えた作品を次々に完成させて行きました。そして、午後の部の最後には、一際大きな紙に部員全員が参加し「紙祭」という文字を大きく描いた作品を完成させ、観客の皆様からひととき大きな拍手をいただきました。紙フェスティバルは惜しまれながら令和元年で最後となりましたが、書道部としてイベントに携われたことを今でも光栄に思っています。

来年度はさらに成長した書道部の姿を皆様に披露することができるようこれからも毎日の部活動に精一杯取り組んでいきます。



4年3組
山田千春



Club Activities

冬季体育大会を終えて

体育委員長 5年3組 花田 純之介

今年度の冬季体育大会は、春季体育大会が中止になってしまったため2日間開催となりました。自分たちにとって2日間開催は初めてでありましたが無事予定通り終わることができました。総合優勝は同率で5年2組、4年1組、3位は3年2組という結果となりましたが、3クラスとも接戦で、優勝と3位は50点差でした。来年度も優勝を目指し頑張ってください。今大会では、感染症対策による観戦の制限などでいつものように楽しむことができなかったかもしれませんが、そんななかでも、各クラス優勝を目指して本気で取り組んで頂けたと思います。球技は例年に負

けず劣らず、初のeスポーツ競技のマリオカートでも大変白熱していて、見ている側もとても面白かったです。最後に、今大会を運営するにあたって体育委員をはじめ、学生会や審判の手伝いをしてくれた各部活の方々、御協力本当にありがとうございました。そして、このような大変な状況の中、今体育大会を開催させて頂きありがとうございました。来年度は春季体育大会も開催する予定です。体育大会がより良いものとなるよう努力しますので、今後ともよろしくお願い致します。



人事異動

○令和2年5月18日付 ————— 教育職員

【採用】(令和2年5月18日～令和2年9月17日まで)
創造工学科准教授(総合人文科学系担当) 平野 摂子

○令和2年9月30日付 ————— 事務職員・技術職員

【辞職】 学生課寮務係事務補佐員(寮母) 米沢 絵理子

○令和2年10月1日付 ————— 教育職員

【昇任】 創造工学科教授(都市・環境系担当) 近藤 崇

————— 事務職員・技術職員

【採用】 技術教育支援センター技術職員 藤島 蓮

【採用】 学生課寮務係事務補佐員(寮母) 杉浦 晃子

○令和2年10月27日付 ————— 事務職員・技術職員

【採用】 研究支援員(松尾研究室) 土居 真澄

○令和2年11月1日付 ————— 事務職員・技術職員

【採用】 事務補佐員(菊田研究室) 江田 沙耶子

【採用】 技術補佐員(菊田研究室) 野中 響己

○令和2年12月1日付 ————— 事務職員・技術職員

【採用】 事務補佐員(学生課教務係) 川崎 玲奈

【採用】 事務補佐員(村本研究室) 山本 菜央

○令和3年1月1日付 ————— 教育職員

【採用】 創造工学科特命助教 柏瀬 陽彦

【昇任】 創造工学科准教授(電気電子系担当) 奥山 由

キャリア教育センター活動報告

キャリア教育センター長 山下 徹

キャリア教育センターは平成25年4月に設置されて以来、キャリアプログラムの策定と実施、就職及び進学などの進路支援などに取り組んでまいりました。

本年度はコロナ禍の中、本センターも多くのイベント、教育プログラムがオンライン、または中止になりました。多くの講師の方に来て頂き、4、5人程度の小グループに分かれて中身の濃い話し合いをするジョブトーク（1、3年生の授業科目の一環）や4年生が就職について真剣に考え始めるきっかけとなる合同企業研究会もオンラインとなりました（ちなみにこれらはすべて苫小牧工業高等専門学校協力会会員企業の協力となります）。

その中であって密とならず十分な間隔と換気が行える状況で実施した本年度のキャリア教育を一部ご紹介いたします。11月4日にキャリアパス講話を創造工学II（2年生の授業科目）の一環として行いました。約200名の学生が広い体育館の中で換気を行いながら（体育館は寒くなりましたが）、熱い話を聴きました。高専OB2名の講師の方々就職してから会社生活や学生時代にしておくべきことを話してくださり、皆熱心に耳を傾けていました。11月16日には就職ガイダンス、12月7日には進学ガイダンスを主に4年生の学生を対象に行いました。こちらは参加人数も限定的であることが見込まれたため校内の大講義室を使いました。苫小牧高専では例年約70名が進学、約120名が就職しています。就職試験や編入試験はまだ先ですがそれまでの準備を考えるとこの時期からの準備が大事になりますのでどちらのガイダンスも皆熱心に聞いていました。

創造工学科1学科体制となってから本年度で5年目となり、ついに創造工学科として初めての学生を就職、進学へと送り出すことになります。キャリアセンターもキャリア教育のより一層の充実を目指します。

学年	目 標	活 動
1年	自己理解と将来の夢の構想、高専での学習や生活の理解と意欲喚起	キャリアデザイン講話、ジョブトークなど
2年	専門的学習への意欲向上と方法の習得、社会に参画する意識の高揚	キャリアデザイン講話、職業人インタビューなど
3年	ライフプランの具体的な構築、進路実現のための自己分析と進路先研究	キャリアデザイン講話、ジョブトーク、道内工場見学など
4年	進路先研究の深化と具体的な進路選択、進路実現に向けた主体的な取り組み	キャリアデザイン講話、各種就活講座、インターンシップ、合同企業研究会など
5年	進路決定と高専生活の総括、進路決定後の次のステージへの準備	キャリアデザイン講話など

《苫小牧高専のキャリア教育》



キャリアパス講話



進学ガイダンス

高専通信

vol.155 contents

- | | | | | | |
|--------|------------------------|----------|-------------------------|----|--------------------|
| 1 | 新年のご挨拶
新学生会長・新寮長の挨拶 | 7
8 | 新型コロナウイルスの
対策・対応について | 13 | 冬季体育大会
人事異動 |
| 2 | 保護者懇談会
共同教育プロジェクト | 9 | プロコン | 14 | キャリア教育センター
活動報告 |
| 3
4 | オープンキャンパス | 10 | 研究室紹介
高専協力会だより | | |
| 5
6 | インターンシップQ&A | 11
12 | クラブ活動報告 | | |

編集後記



今回の高専通信第155号では、令和2年度の入学式以降の本校の動きをお届けします。本来ですと、高専通信は年3回発行しており、前回の154号の編集後記でも、「本年度も高専通信により学校の様子を年3回に分けて皆様にお伝えします。」と書いておりました。しかしながら、新型コロナウイルスへの対応のため、学校行事等で中止を余儀なくされたものが多く、それらの記事を掲載できないことから、今年度の高専通信については、年度の中盤と後半の2回分をまとめて発行することとした次第です。

今年度は取り止めとなった、主な行事・イベントを挙げると、春季体育大会、高専体育大会、高専祭、第3学年工場見学旅行、第4学年総合研修旅行が並びます。また、公開講座や「科学のとびら」といった学外向けのイベントや、近年活発化していた海外への学生派遣、海外からの短期の学生受け入れ等の国際交流事業も中止せざるを得ませんでした。

中止となった行事名、イベント名を列挙していて、改めてその影響の大きさを感じておりますが、授業・実験等については、関係各位のご尽力や工夫によって、何とか完了し終業できる見込みとなっています。

まだまだ予断を許さない状況ではありますが、早く、通常の学校の状態に戻ることを願ってやみません。

総務主事補 稲川 清

〔高専通信に関するお問い合わせ先〕

苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係 ☎059-1275 苫小牧市字錦岡443

TEL.0144-67-0213 [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

